

居合道試験問題・解答

問題

- 1・全剣連居合「3本目 受け流し」の要点を述べよ
- 2・「抜き付け」と「切り下し」について簡単に述べよ
- 3・全剣連居合「1本目 前」の技の留意点を述べよ
- 4・「目付け」について述べよ
- 5・「遠山の目付け」について述べよ

- 6・「気・剣・体」の一致について述べよ
- 7・全剣連居合1・3・10本目の審判・審査上の着眼点を述べよ
- 8・指導者としての心構えについて述べよ
- 9・居合修業の目的について述べよ
- 10・「剣居一体」について述べよ

- 11・居合道の心得について述べよ
- 12・居合道の始祖について知る所を述べよ
- 13・居合刀の適当な長さについて述べよ
- 14・「残心」について述べよ
- 15・「序・破・急」について述べよ

- 16・鯉口の切り方三種ありについて述べよ
- 17・「守・破・離」について述べよ
- 18・居合道の流派名を5つ以上あげよ
- 19・「呼吸」について述べよ
- 20・居合道の「間合」について述べよ

- 21・刀の握り方の「手の内」について述べよ
- 22・初心者の指導上注意すべき点を述べよ
- 23・刀の名称について述べよ
- 24・6本目「諸手突き」、技の着眼点を簡条書きに記せ
- 25・五行の構えに就いて述べよ

1・全剣連居合形「3本目 受け流し」の要点を述べよ

- 1・左の敵を十分意識して着座する事。
- 2・抜き上げた右拳の位置は動かさぬこと。(胸元近く頭上前方)
- 3・受け流しの動作を明確に示す事。(抜き上げると同時に立ち上がる)
- 4・受け流の時、刀で自分の上体をかばう事。(刃を後斜め上に、切っ先を下げ)
- 5・右足踵の後方へ左足爪先を引き敵を袈裟に切る事。
- 6・受け流しから袈裟切りまで一連の動作で行う事
- 7・切り下ろした時左拳は臍前で止め、切っ先は水平より僅かに下げやや左にする事。
- 8・袈裟に切った角度は正面に対し、凡そ15度であること。
- 9・油断なく斬新を取る事。

2・「抜き付け」と「切り下ろし」について簡単に述べよ

居合の生命線である「横一文字」の抜き付けは、抜き始めてから切っ先が鞘から放たれるまでは、序・破・急の速さで行い、鞘離れした瞬間に勝負が決り相手が倒れて居るという心構えで抜き付けなければならない。

それには刀を抜く前の心構えが大切で、刀が鞘の内に有るとき既に、相手を制し抜かずに勝をおさめる心が大切である。

丹田に精を込め、肩の力を抜いて位くらいを示す。居合は鞘の内の勝負ともいえる。

技術的には鞘の中に切っ先を10cmほど残す位に帯に沿って充分鞘引をし、物打ちで敵を切るように抜かなければならない。

切り下ろしは「とどめ」の一刀であり刃の当たった所よりも深く切り込むようにする。即ち、仮想の敵を完全に両断する気力で切ることである。

抜きつけた刀を頭上に振りかぶるまでの刀の軌跡に注意して、振りかぶったら間髪を置くことなく振り下ろす事。

技術的には大きく、正確に、速く、切るべき処をしっかりと斬る事である。

3・全剣連居合居合形「1本目 前」の技の留意点を述べよ

- 1・機先を制して敵のこめかみに抜きつける事。
- 2・抜け付けの時、充分鞘引きをする。この時左手小指は帯に沿って後方に引く事。
- 3・後足が鍵足にならない事。
- 4・抜きつけた時、上体は45度左へ開き、下半身は敵に正体する事。
- 5・抜きつけた刀の切っ先は、右肩の高さより僅かに下げ、右拳の内側とする。

- 6・左耳に沿って後方を突く様に振りかぶる事。
- 7・振りかぶった時、剣先を水平より下げない事。
- 8・振りかぶったら間を置く事無く切り下す事。
- 9・切り下ろした時の切っ先は僅かに下げる事。
- 10・切り下ろした時の左手拳は臍前で止める事。
- 11・血振りは袈裟に下ろし居合腰になる事。
- 12・血振りした時、右拳、左拳の高さを同じにする事。
- 13・其の時切っ先は、約45度前下がりとし、右拳の内側とする事。
- 14・納刀は、左手中指で鯉口を握り、鰐元から納める事。
- 15・納め終わった時、鰐は臍前とし、刀は水平にし、残心を示すを事。
- 16・総じて敵を意識し、目付目配りをし「序・破・急」を考えた稽古をする事。

注・所作の順序を思い起こし、抜付・振りかぶり・切り下し・納刀順に記述すること

4・「目付」について述べよ

坐った時の目付は4.5メートルの床とし、一点を凝視するのではなく遠山を眺める気持ちで八方に心眼を配り、眼は半眼とする。遠山の目付は常に敵の来襲に備え、瞬時に対応出来る為のものである。

動作中の着眼は敵の面（眼の動き）に付ける。切り下ろした時は、切っ先の後を追うように倒れた敵を見越した所に目を付ける。

眼はいつも平静で、瞬きをしたり、凝らしたりしてはならない。

5・「遠山の目付け」について述べよ

居合で大切な事は目付で有り、特に遠山の目付は大切である。遠山の目付とは、常に敵の来襲に備え、目を半開きに遠くの山を見る様にすれば、敵の動きが遠近どちらでも見易く、瞬時に対応できるからである。

6・「気・剣・体」一致について述べよ

気・剣・体の一致の無い居合は中身の無いもので、形だけを演ずる真似事の居合である。「気」は精神、「剣」は神器である日本刀、「体」は身体であり技である。

身体をを鍛え、日本刀で技を磨き、精神を練り気を養い、これらが一致して演武するとき「手を打てば音が出る」という例えの様に、いささかの隙間もなく一致することを言う。

7・全剣連居合「1・3・10本目」の審判、審査上の着眼点を述べよ

1・居合全体にイえることであるが、正しい礼法、作法そして、充実した氣勢と適法な姿勢を持って、正確な技術と刀法に基づいた、気・剣・体一致の技前と心構えの優劣によって勝敗を判定する。

2・1本目「前」

- ①抜きつけた時、充分鞘引きをしているか。
- ②左耳に沿って後を突くように振りかぶっているか。
- ③振りかぶった時、切っ先は水平より下がっていないか。
- ④間をおく事無く切り下しているか。
- ⑤切り下した切っ先は僅かに下がっているか。
- ⑥血振りの体勢は正しいか。
- ⑦正しく納刀しているか。

3・3本目「受け流し」

- ①受け流しの体勢にて上体をかばった姿勢になっているか。
- ②左足を右足後方に引き、袈裟切りになっているか。
- ③左拳は臍前で止め、切っ先は僅かに下がっているか。

4・10本目「四方切り」

- ①柄当ての時、強く確実に柄の平で打っているか。
- ②鞘引きした時、物打ち付近の棟を左乳にあて右手が身体より離れているか。
- ③突いた時左手は鯉口を握ったまま臍前に送り、左右の絞込みが出来ているか。
- ④脇構えを取ってから出なく、脇構えになりながら振りかぶっているか。

8・指導者としての心構えについて述べよ

1・居合道の修行により、其の礼法・礼儀を習得し、剛健な身体と百折不屈の精神を鍛錬し、人の為、社会の為、貢献できる人間になる様にする。

2・礼儀・礼法を尊び、神前、恩師、先輩、神器である日本刀、相互の始礼・終礼、これらを身に付け、人格の向上に繋がる様心掛ける。

3・弟子に対しては

- ①全剣連居合を正しくしっかり教える。
- ②次に古流の初伝・中伝・を教える。
- ③礼儀・礼節をしっかり教える。
- ④愛情を持って育てる気持ちで教える。

4・居合道同好者を増やし、全剣連発展の為、私利私欲を捨てて、努力し、社会秩序

の確立と平和な社会の実現に努める。

9・居合道修行の目的について述べよ

居合は最初一種の刀法として始まったがその目的は精神の鍛錬が第一で、身体の練磨、技術の訓練と言う順になる。

心身の鍛錬は剣道と同じであるが、その技術は剣道の根本である。つまり、刀の運用や礼儀など全てが、剣居一体のものであり、居合道の修行をすることは自分自身の鍛錬、人格の向上に繋げるものである。

居合の修行によりその技法、礼儀を習得し、剛健な身体と百折不屈の精神を練成し、人の為、世の為貢献できる人間になる。

10・「剣居一体」について述べよ

剣道、居合道は一体のものである。拍手をした時、どちらの手より音が出た分からないと同じ様に剣道と居合道は別のものではない。

剣道は互いに剣を抜き合わせて勝負するが、居合道は、抜き付け、斬り付け、或いは抜き打ち等、一瞬の内に相手を倒す技法である。

武士は居合道と剣道を併せて修行したもので、居合の達人は剣道の達人であり、剣道の達人は居合にも精妙であった。

居合の抜き付け、斬り付け、手の内、刀法、礼儀、礼節、精神面、技術の点でも剣道修行に欠かせない。

11・居合道の心得について述べよ

- ①良き師を選び、師を尊ぶべき事。
- ②師の力量に惚れ込んで、一心不乱に精進すべき事。
- ③面白味の出るまで修練すべき事。
- ④修行上、流派の系譜を尊ぶべき事。
- ⑤自己流の技法を徒に固執しない事。
- ⑥伝統の技法の改定は慎重で有るべきこと。
- ⑦素直に身に付くまで修練し、慢心しない事。

12・居合道の始祖について知るべき所を述べよ

居合道の始祖は、林崎甚助重信。産まれは奥州出羽、現在の山形県村山市。今から450年前、親の仇討ちの為、居合いを極め居合道の始祖となり、現在その地に林崎神社があり始祖神として祀られている。

13・居合刀の適当な長さについて述べよ

どんな長さのものであっても、それを自在に使わねばならないが目安としては、自然に立って刀の鐔元近くを握り腕を伸ばした時、床につく位が良いとされている。

又、自分の身長から約90センチ引いたものを最長限度とするのが良いとされている。

14・「残心」に付いて述べよ

(答1) 敵を倒した後、敵に心を残して、その反撃や来襲に備え、直ちに抑圧し得る姿勢・態度・構えである。

残心は剣道、居合道では最も大切であり、残心の無い剣法は死である。

◎(答2) 心残りなく斬撃する事。敵を倒した後も、完全に制したと思う心を緩めず、充分に心を残して油断なく、眼前の敵だけでなく四方に対しても応変の備え有ること。

又、構え、形如何ではなく、無碍自在の働きを為す不動の精神を指す。

15・「序・破・急」について述べよ

(答1) 序・破・急とは施術の際の刀法遅速の用語である。静かに刀ヲ抜き始めるのが《序》であり、次第に速度を速めて抜くのが《破》であり、抜きつけの瞬間が《急》である。

◎(答2) 施術の際の刀の遅速を表す用語である。最初は処女の如く、終わりは脱兎の如くである。《序》は物事の始まりで静かな事を表す。《破》は破れること、《急》は激しくなる事。

居合道で抜きつけに例をとれば、静かに刀を抜き始める時が《序》であり、次第に速く抜くのが《破》であって、抜きつけの瞬間を《急》という。

丹田に力を入れ充分に気力が満ちている時《序・破・急》で抜きつける。

16・「鯉口の切り方」三種有りに付いて述べよ

①内切りー鐔を左手親指先で敵に察せられぬように押し切る。

②外切りー鐔を左手親指を敵に見えるようにかけて押し切る。

③控切りー左手親指を鐔にかけ、更に人差し指で控える様に切る。

17・「守・破・離」について述べよ

守・破・離という言葉は修行と言う名の付く「道」には、殆んど用られる用語で有る。従って、武道の専門用語ではなく禅の教えから来た禅語である。

居合で言えば、

《守》は、師の教えを良く守り、教えられた通りに修行する事。

《破》は、その流派以外の流派を研究し自分に取り入れる。(高段者)

《離》は、守・破を卒業し自ら研究工夫し一派一流を立てることを言う。

18・居合道の流派名を五つ以上上げよ

- ①夢想神伝流 ②無双直伝英信流 ③伯耆流 ④林崎流 ⑤田宮流
⑥無外流 ⑦水欧流 ⑧新當流 ⑨香取神道流 ⑩新陰流

19・「呼吸」に付いて述べよ

静かに腹式呼吸をする。一つの技を終えて次の技に移る時は、ゆっくりと二呼吸して息を整え、三回目の息を吸い終わるまで吐かず、一気に行い納刀してから軽く吐く。

長い技の時は途中息を継ぐ必要が出てくるが、何時息を継いだか分からない様にする。

20・居合道の「間合」について述べよ

間合とは、自分と相手の距離で、剣道では一足一刀の間を取るが、居合では抜き付け、斬りつけのとき刀が届く距離である。相手を充分引き寄せ倒すのである。

又、時間的な間合も大事である。相手の技の起こりを制し、隙を突いて最も効果的なタイミングで抜き付け、斬り付けを行なうので有る。

《間》を間違うと自身の命取りとなるので十分な修行が必要。

21・刀の握り方の「手の内」について述べよ

柄の握り方は、右手人差し指が柄の淵金にかから無いようにし、左手は柄頭より前で両手の握りの間は約3～4cmで、握る力はずゆ・薬指・小指の順で強く握り、人差し指と親指には力を入れず、切る瞬間にぐっと握り締め両手首を締める。

22・初心者の指導上の注意すべき点を述べよ

居合いの修行で最も大切なのは礼儀で有る。神前・恩師・先輩・刀・相互に対しての始礼・終礼である。此れを真心を込めて行なう。これが自然に身に付くと自らの人格も向上する事になるので範を垂れる。

又、技は大きく正確に、強く行なう事から、先ず全剣連居合を基本技として時間をかけて修行するように指導し、これが正しく出来たら古流の大森流、英信流へと修業が進む様に指導する。そして、

- ①居合の心得・目的・効果を説明する。
- ②礼儀・礼節・作法を教える。
- ③刀の名称、取り扱い方法を教え、練習前の目釘の点検と安全を確認させる。
- ④居合の生命は、抜き付け・切り下しで有る事。又、氣力を充実させ基本を正確に教える。

23・刀の名称を述べよ

《省略》…全日本剣道連盟居合解説書を参照。

24・6 本目「諸手突き」、技の着眼点を箇条書きせよ

- ①敵の右斜め面を抜き打ちしたとき、顎まで切り下しているか。
- ②中段になりながら後足を前足に送り込んで確実に敵の水月を突き刺しているか。
- ③刀を引き抜きながら受け流しに振りかぶっているか
- ④右足を軸にして左回りに敵に向かっているか
- ⑤切り下したとき刀刃水平になっているか
- ⑥敵に向かうとき右足を踏み込んでいるか